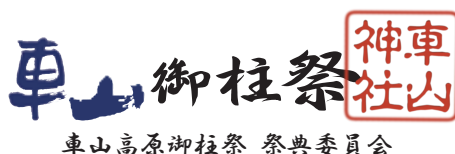


天空の御柱

平成28年9月25日 山頂へ

曳行に参加されませんか。
詳しくは裏面へ。



■御柱祭と車山神社

「諏訪大社式年造営御柱大祭 -御柱祭-」〔長野県無形民俗文化財〕

諏訪大社は守屋山(諏訪市・伊那市)を神体山と崇める上社〔本宮(諏訪市)、前宮(茅野市)〕と、神木を崇める下社〔秋宮、春宮(下諏訪町)〕の四つの神社から成ります。数えて七年毎の寅と申の年に行なわれる、宝殿の造営と遷座、それぞれの社殿の四隅に建てる大木を選ぶ見立てから始まり、山から里への曳き出し、そして境内に建てるまでの一連の神事を「御柱祭」と呼び、天下の大祭として諏訪地方六市町村二十一万人の氏子たちがこぞって参加するのです。ご祭神である「諏訪明神」は古くは風・水の守護神で五穀豊穰を祈る神とされ、また武勇の神としても広く信仰されており、東国第一の軍神として坂上田村麻呂や源頼朝、武田信玄、徳川家康といった武将からの崇敬を集めてきました。現在では、生命の根源・生活の源を守る神として、多くの人々が参拝に訪れています。

昭和のはじめ、霧ヶ峰のカボッチョ山にスキー場とジャンプ台が設置されるにあたり、(地元、北大塩区の有志によって)「スキー神社」が建立され、山の神様である「大山祇命(おおやまずみのみこと)」が祀られました。その後、スキー場の主流が車山高原に移るのに際し、神社は車山山頂へと遷座され、諏訪大社系譜の神社として「建御名方神(たけみなかたのかみ)」「八坂刀売神(やさかとめのかみ)」と合祀されました。現在は一世紀近くに亘り、山の鎮守と訪れた人々の安全、スキー上達の神様として見守り続けて頂いております。

■「車山高原御柱祭 ～天空の御柱～」

諏訪大社の御柱祭と同じ年の8月下旬から10月にかけて、今度は各地域の神社での御柱祭(小宮祭)が始まります。小宮と呼ばれるのは諏訪地方六市町村(岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町・富士見町・原村)に点在する大小様々な神社を指します。諏訪大社の御柱祭に比べると規模は小さくなりますが、見立て、山出し、里曳きという行程はほぼ同じで、それぞれの小宮祭ならではの特色・こだわりからも、その地域ごとの神への崇敬の念とお祭りへの愛着を感じ取ることができます。

斎行される御柱祭・小宮祭の神事のほとんどが奥山から里へと大木を曳くものですが、ここ車山の小宮祭は唯一、山の急斜面や岩を越えて山頂を目指す、数多の小宮祭の中でも大変珍しいとされる御柱の曳き上げを行ないます。標高約1800mから1925mの山頂まで、想いをひとつにして曳いた大木はやがて「頂に登りつめて 神となる」、これが天空の御柱といわれる所以です。八ヶ岳、富士山、浅間山、御嶽山、日本アルプス。日本の名峰を一望する車山の頂に、人々の手によって天空の近くへと運ばれた四本の御柱は、次の小宮祭まで私たちを見守っています。